

## 志賀町西浦地区ワークショップによる地域再生のモデルの取組

### ～ ワークショップによって、住民がどれだけやる気になるか ～

北陸先端科学技術大学院大学（能美市）の國藤 進 副学長（知識科学研究科教授）の研究グループは、石川県志賀町西浦地区の地域再生に向けて、平成 23 年 8 月 19 日から 22 日までの 4 日間、8 名の学生（中前、宇佐美、下入佐、中井、戎、横尾、酒部、笹谷）による地域活性化を目的としたフィールドワーク実習と住民とともに地域再生を考えるワークショップに取り組んだ。

地域再生には、地域をどうするかという住民自身の強い思いと決意がなにより重要である。どのようにしたら住民が主体的に地域再生に取り組むことができるのか、住民意識の高揚とやる気の醸成が継続的な活動には不可欠である。今回のワークショップのコーディネーター（ファシリテーター）は、住民を巻き込み、かつ住民自身が主体となって地域再生に取り組むワークショップを多数成功させている情報工房の山浦晴男氏が指導した。オブザーバーとして石戸康弘氏（京都大学大学院農学研究科科目履修生）と茅原（都市農山漁村交流活性化機構）が参加した。

山浦氏は、コンサルテーションを中心とした従来の地域活性化モデルでは、地域にお客を連れてくれる、物売る方法を教えてくれる、答えを出してくれるということに慣れてしまうと補助金が切れたら息切れしてしまう危険性を孕んでいると言う。

そこで、地域再生には、地域住民が自分たちで地域のことを考え、取り組むという覚悟を決めることを促し、そのうえで、必要ならば外部の知恵を提供するというステップで、地域再生のワークショップを企画している。

今回、西浦地区で取り組んだワークショップも地域づくりを住民自身で考え、取り組むためのモチベーションが十分に上がったことは、住民の感想からも明らかである。西浦地区の再生は、第一歩を歩みだしたばかりではあるが、長年の住民の中に渦巻いていた、地域の将来への不安やなんとかしたいという思いが、住民同士で共有していることが判明し、皆で取り組んでいこうという機運が盛り上がったことから山浦式地域再生ワークショップは、地域活性化に悩む地域（特にカリスマリーダー不在の）にとっても大変参考となる取組手法であると思う。

石川県能登半島の西側、志賀町の北部に位置する西浦地区は、北前船で栄えた時代から漁と優れた船乗りを排出した半農半漁の地域。松本清張のゼロの焦点の舞台となったことで話題となったヤセの断崖など能登金剛の景勝地を有するものの、観光施設は少なく、2005 年（平成 17 年）には小学校が閉校するなど、少子高齢化の進展が著しく、美しい棚田の保全や耕作放棄地対策が課題となっている。

今回のワークショップは西浦地区を構成する「前浜、笹波」「鹿頭」「赤崎、小窪」の 5 地区の区長さんをはじめとする住民の協力を得て、住民とともに地域再生のプランづくりを試みた。

通常 3 回ほどに分けて行うワークショップを今回は、4 日間で、学生が地域の課題や資源をまとめ、住民に提案する。住民はその内容を踏まえて、住民同士で意見交換し、自らの再生で実施する事項を記入し投票するというプロセスを初日と最終日に 2 回実施した。

具体的には、[1]学生は、全地区を車で回り概要を把握した。[2]学生は外から見た目として、学生間で意見交換を行い地域の課題、資源を整理。[3]そして、学生は、住民に外から見た目として説明を行う。[4]住民は、学

生の外から見た目としての地域の課題や資源についての説明を受けて住民同士の意見交換を経て、地域の課題をリストアップした。[5]そして、住民は、リストアップされた課題について重要度の順位付けの投票を行った。以上の[1]～[5]が初日の活動である。

2日目以降は、[6]学生は、5地区を3グループで分担して、区長の案内で探索し、インタビューを行いつつ、デジタルカメラで撮影した。[7]学生は、撮影した写真をプリントして、地域の資源・課題を写真でKJ法の手法を利用した写真分析方法で類似のものをまとめつつ、関連性等を図式化したマップを作成した。[8]学生は、写真分析マップを参考に、探索した結果を踏まえて、課題の解決及び地域資源の活用を図るために西浦地区を元気にするアイデアをイラスト入りで各自3枚以上作成した。

[9]最終日は地域住民に集まってもらい、取組の経緯の説明から初日にまとめた学生の外から見た課題、資源の説明、続いて、住民の地域の課題の取組事項を優先度順に説明。さらに、3チームに分かれて分析した写真分析マップ、最後に、地域を元気にするためのアイデアイラストマップを説明した。[10]住民はその説明を受けて、住民同士意見交換を行い。自分たち住民として何を取り組むのかをポストイットに記述した。[11]記述した取組事項について各自その場で発表をしつつ、山浦氏が模造紙に貼っていく。昼の部はここまで。

そして、[12]昼に参加できなかった人を中心による夜再度住民が参集し、[9]～[11]を行う。[12]整理された住民として取り組む事項について住民全員が優先度を投票する。[13]最後に住民は、実行計画として、順位づけられた事項について、難易度、実現の目標時期、誰が行うかさらに着手の順位を検討した。取り組む事項の優先順位が決まってもだれが行うのか等々が決まらず結局、取組が進まないことが多いが、そうならないようにするため、住民自身が取り組む事項の難易度を計りいつごろを目安に誰が主体的に取り組むのか、またその着手の順位を検討することで、自分たちの役割と責任感が芽生えた。これでワークショップの全過程は終了した。

今回のワークショップの仕掛け人であり、小窪出身の中前氏から今後、今回の住民の意見をより多くの住民に知らせるとともに、具体的な活動進めていくことの決意を明らかにして西浦地区再生に向けた取組の第1歩が踏み出された。

当初、西浦地区のワークショップは、学生の研究のために計画されたものであったが、山浦氏の提案により地域住民も巻き込んだ対話型共同作業を盛り込むことになった。他地域で取り組む山浦式ワークショップでは、住民中心に地域の課題の整理、地域の資源の発掘、そして課題解決のためのアイデア創出を行う。

山浦式の地域再生の取組の特徴は、やることが具体的に決まっていることをどうするか考えるのではなく、住民が主体となって何を行うかを創出することにある。そのために、KJ法の特徴である多くの断片的なデータを統合して、創造的なアイデアを生み出し、問題の解決の糸口を探ってゆく過程を経て、自分たちで考え、課題を共有する、さらに結論を投票によって決定するという知的創造性あふれた共同作業を丁寧に行っている。住民のやる気はどこでわかるか、その答えは、ワークショップ終了後の住民の感想で明らかである。住民は、地域の課題を自分のものとして消化し、地域再生への情熱を他者（仲間）と共有し共感を得ることでやる気が盛り上がるのではないかと感ずるのである。

（報告：都市農山漁村交流活性化機構 茅原）

① 志賀町西浦地区ワークショップ・プログラム

	初日 (8月19日金)	2日目 (8月20日土)	3日目 (8月21日日)	4日目 (8月22日月)
午前	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現地入り</li> <li>●開講式</li> <li>●プレFW演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・5地区代表に挨拶しつつ、全員で5地区を事前探検、写真取材</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●FW演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・5地区代表の取材</li> </ul> </li> <li>●FW演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・2人1組になって5地区に分かれて写真取材</li> </ul> </li> <li>●午前中は、各地区代表の案内でFW</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WS②演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真分析（続き、写真データリスト作成）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WS③演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストアイデア地図の作成（続き）</li> </ul> </li> <li>●プレゼンの準備</li> </ul>
午後	<ul style="list-style-type: none"> <li>●導入講義：WSと地域の活性化</li> <li>●WS①演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレFWで感じたことをもとに問題意識の発掘・共有化、「問題意識地図」作成。</li> <li>・取材計画立案</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正午以降は、案内なしで自由にFW写真のプリントアウト</li> <li>●WS②演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真分析（5地区単位で資源写真地図）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WS③演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・活性化案立案（全員で討議により、本質的な問題の洞察から解決方向のコンセプトづくり）</li> </ul> </li> <li>●WS③演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・活性化アイデアの発想（イラストアイデアカードの作成）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民WS②：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習で検討した結果のプレゼン</li> <li>・プレゼンを受け、住民が今後の取り組み策を検討</li> <li>・解決策地図の作成</li> <li>・実行計画の検討</li> </ul> </li> <li>●閉講式</li> </ul>
夜	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民WS①：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・外の目でみた問題意識地図発表</li> <li>・住民の目でみた問題・課題の共有化、住民の問題意識地図作成、重点評価</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WS②演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真分析（続き）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WS③演習：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストアイデア地図の作成</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●再住民WS②：               <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習で検討した結果のプレゼン</li> <li>・プレゼンを受け、住民が今後の取り組み策を検討・解決策地図の作成・実行計画の検討</li> </ul> </li> </ul>

註) FW=Field Work WS=Workshop 墨塗りは地域住民参加



② ヤセの断崖上から写真を撮る学生



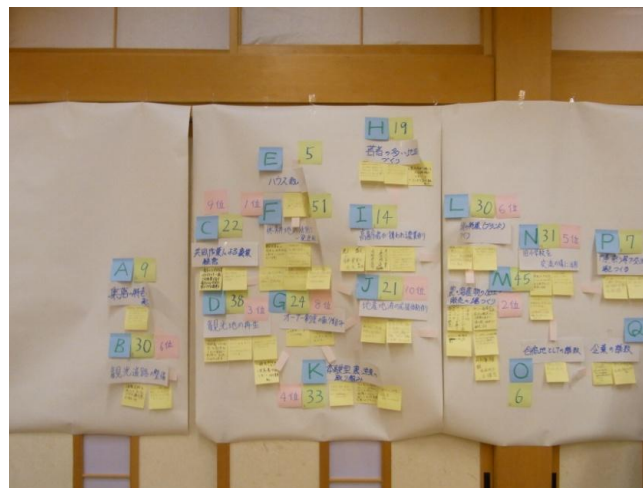
③ 棚田100選に選ばれた 大笹波の千枚田



④ 地域の課題を学生が抽出

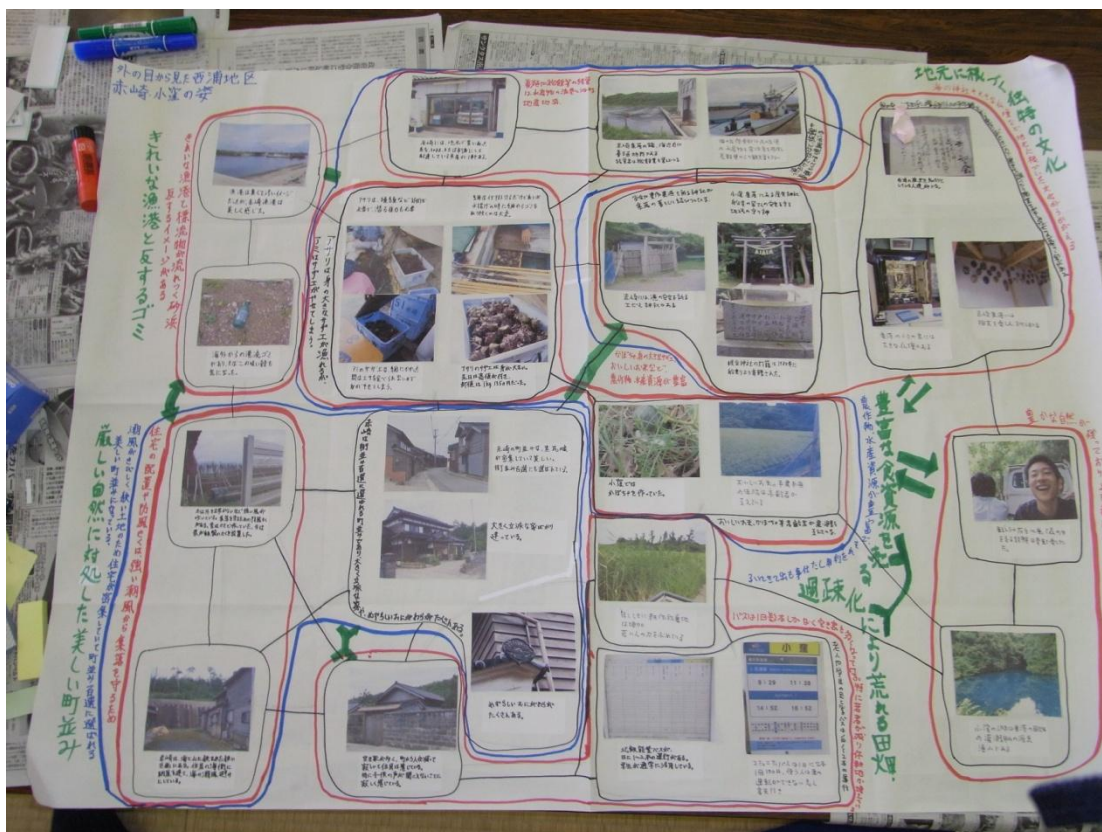


⑤ 学生が抽出した地域の課題のマップ



⑥ 初日の夜に実施した住民の地域活性化すべき課題の順位づけの結果





⑦ 外から見た西浦地区 赤崎・小窪地区 (写真分析マップ)



⑧ 外から見た西浦地区 (写真マップ) の説明する学生と熱心に聴く住民



⑨ 住民が実施すべき事項を抽出し、皆で取り組む順位付け（投票）を行った結果マップ

⑩ 第一日目に、学生の外から見た西浦地区の課題の発表を受けて、住民が考えた地域の課題と解決への優先度を投票した結果

投票は一人、優先したい取組を5個選び優先度の高いものから5点、4点、3点、2点、1点と記し投票した。

- 第1位 休耕地の活用で一発逆転（51点）
- 第2位 農海産物の加工販売の場づくり（45点）
- 第3位 観光地の再生（38点）
- 第4位 体験型農漁業の取組（31点）
- 第5位 旧小学校を交流の場に活用（31点）
- 第6位 西浦の特産（ブランド）づくり（30点）  
観光道路の整備（30点）
- 第8位 オーナー制度の取組（24点）
- 第9位 共同作業による農業経営（22点）
- 第10位 地産地消の応援体制づくり（21点）

以下、若者の多い地域づくり（19点）、高齢者が携われる農業づくり（14点）、企業の誘致（11点）、集落の特色の情報発信（9点）、行事祭り等の場をつくる（7点）、合宿地としての誘致（6点）、ハウス栽培の導入（5点）

⑪ 住民が決めた実行計画

優先度の高いアイデアの実行計画への導入【実行計画表】

優先度の評価順位	アイデア項目	難易度 (ABC ランク)	緊急度(いつまでにやるか) (○印の記入)			役割分担・主体(誰がやるか) (○印の記入)			着手 順位	備考
			早く(1 年以内)	2~3 年以内	ゆっくり (4~5 年以内)	住民	協働で	行政		
1	空き家の活用で農漁業体験事業	A		●		●	●		4	
2	体験型直売所の設置	B	●			●			3	まずは直売所から
3	仲間で加工品作り	B	●			●			3	
4	情報発信のための調査	C	●			●			2	
5	地域の物語を利用した名所・話題づくり	C	●			●			6	
6	区民全体を巻き込んだ収穫祭の企画	C	●			●			2	
6	観光に力を入れた情報発信	B		●		●	●		5	
8	観光バスがよれる直売所の常設	A			●	●	●		8	JA、JF連携
9	本会の区民への周知と情報収集	C	●			●			1	
10	安心・安全な農産物の栽培	A		●		●			7	

※優先度の順位の投票は一人、優先したい取組を5個選び優先度の高いものから5点、4点、3点、2点、1点と記し投票した。

※上位10項目について、住民と協議して難易度、緊急度（いつまでにやるか）、役割分担・主体（誰がおこなうのか）、着手の順位を決めた。

協議の結果優先度が高いものでも難易度の高いもの、緊急度の低いもの、先にやるべきことがあるものなどは、着手順位が下がった。

⑫ 地域再生ワークショップを実施しての住民の感想

感想は、各自付箋用紙に記入して提出した。投票を終えて先に帰った人もいるので、参加者数とは合わない。

8月19日(木)の「外から見た西浦」の発表の後(34名参加)	
1	学生の考えていることと私の考えが一致した感じがした。
2	大変有意義なコミュニケーションの場を持って頂いた。今後地域の有効活用として頑張りたい。
3	地区のためにいろいろと有り難うございました。明日からまた宜しくお願いします。
4	かつて真剣に地域について議論する場がなかったので興味深く新鮮であった。
5	大変良かったです。ありがとう！
6	皆さん暑い中ご苦勞様。これからの西浦の将来にご協力よろしくお願いします。
7	今回のような機会は初めてなので、これを機会にして何かに進めれば良い。
8	今夜の話で今後実ってくることを祈る。
9	大変良かった。後が楽しみです。
10	若い皆様の発想に期待します。ご苦勞に感謝します。
11	希望が持てるような気持ちです。宜しくお願いします。
12	初めて外部からの意見、地元にいると思っていなかったことが見えてきて良かった。
13	夢を忘れずに地道な努力を！
14	日本元気にする学生に感謝します。
15	大変良い会合でありました。またこういう会合を持ちたい。
16	私は若者の多い町づくりが中心と思ったが農業とは意外と思う。本日は大変良かった。
17	大変難しい問題を真剣に取り組んで頂き有り難うございます。明日から宜しくお願いします。
18	改めて西浦地区の欠点が見えたような気がしました。皆さんお世話様でした。
19	当地の有効活用は比較的容易に可能。頑張ろう。
20	皆さんの考えていることに共感持てたのしい場でした。学生さん先生方の協力に多いに期待します。
21	考えが甘い。
22	結果を見て判断するが初日からご苦勞様です。
23	地域の取りまとめにご協力くださる様お願いします。
24	いろいろ良い意見が出てきたが前提としての人がないことが問題ですね。
25	まじめに頑張っている学生さんに



8月22日(月)の調査報告、意見交換の後 (21名参加)	
1	地区の住民が集結して何とか現状からの一点突破できればいい。
2	感想として思っていることが皆同じだということが嬉しく、今後少しでも”故郷”をもり立てていきたいと思いました。みなさん有り難うございました。
3	なかなか西浦を考える機会がなかったので良い研修会でした。出た案のうちひとつでも実現できればいいですね。
4	先ずは情報発信・情報周知の結果が出た。同じく本会で村おこしの意欲に気づかされたことを喜ぶ。
5	西浦地区が一步前進できることを期待して……。ご指導ありがとうございます。
6	軌道に乗れば良いと思います。気持ちは目から鱗が落ちた思いです。有り難うございました
7	ここまで話題が発展するとは考えていませんでした。区長としてじっくり考えて次の行動に移していきたい。
8	4日間本当にご苦労様でした。今回このような機会を通してあらためて自分の住むところについて考えました。今後自分のできることに参加、協力していきたい。
9	日本全体を良くして下さい。学生と先生に感謝します。
10	地区民の意識改革を持ってもらうために、背中を押してもらった気がします。 Many Thanks.
11	有意義な研修でした。有り難うございました。
12	今回の取り組みにご協力いただき誠に有り難うございました。これからの西浦地区が少しでも前向きに進んでいくことを願い皆さんに感謝します。
13	この機会を住民皆で協力して一つずつ取り組んでいきたい。有り難うございました。
14	4日間有り難うございました！必ず実現します。
15	個人的な意見ですが富来を描く会が志賀を描く会になってしまい、富来だけのものが欲しいと思います。富来の美しい風景をいかしたい。
16	暗闇の中にいたような毎日でしたが何か少し先が見えたようで、とても若返ったような気持ちです。ごくろうさま。